

2020年度 NO. 2 2020.7.31

## 目 次

### 1. 通常総会報告

今年度の総会はコロナウィルス対策として、6月28日書面表決により、すべての議題が滞りなく承認可決された。大阪府のコロナ感染者は7月から増えているというが、次年度の総会は通常通り開催できることを願う。

### 2. パプアニューギニア滞在記

会員の高森さんは、JICA（ジャイカ、(独) 国際協力機構）の JICA 海外協力隊（青年海外協力隊）のボランティア業務を調整する企画調査員として、パプアニューギニアに赴任。2019年3月から2年間の任期予定でしたが、コロナ禍でやむなく2020年5月に帰国されました。国名は知っているも、どこにあるのか、どんな国なのかを知っている人は少ないのではないでしょうか？滞在中に見分したことをレポートしていただきました。

### 3. 楠大吉のエッセイ 『プラリサイクルは現場の声を聴くこと！』

7月1日からレジ袋有料化が始まった。スーパーでのレジ袋辞退率は増加しているらしいが、これで世の中からレジ袋が減って、海にいる亀が助かるのだろうか？

### 4. 緩速濾過技術の浄水場を残そう（その1）

浄水場では原水を濾過して飲み水を作っているが、原水の状態によって濾過の方法を変えて行うことができる。淀川の水と光明池（泉州地区）の水では当然汚れ具合が違うが、大阪府は府下一律に水道事業を行おうとしている。それによって水道代が高くなるのだ。

### 5. 加藤さんのコラム 夕陽を見ながら楽しいごみ拾い

きれいな夕陽が見られる。写真を撮るとほかの人も喜ぶ。淀川河川敷がきれいになって、もっと多くの人が喜ぶ。そんなごみ拾いの話をお届けします

## 第 21 回通常総会の概要報告

第 21 回通常総会は新型コロナウイルス感染拡大予防の観点から、書面評決により開催され、6 月 28 日（日）に吹田市春日の mannmaru データサービス事務所において表決書集計の結果、下記事項が承認可決されましたので、その概要を報告します。

記

### 1. 令和元年度事業報告

実施された主な事業は次の通り

- ① 情報提供事業は、年 6 回の会報発行（令和元年度 NO.1～NO.6）とホームページ運営を行った。
- ② 他団体との協働事業として「大阪ごみ減量推進会議」に参加し、事業部会活動の一端を担い、市民対象事業の学習会の開催に協力した。またワークショップ形式による住民学習会の進行役を担い、今年度も環境省が設置したごみ減量推進委員の活性化に貢献した。
- ③ 市民派議員との「ごみ問題学習会」事業（2007 年 7 月～）は今年度も新メンバーが加わり、ごみ問題とは直接関係しない諸問題への解決方法を探す取り組みを強化した。
  - ・西宮市と芦屋市は合同でごみ焼却施設を建設する計画を持っている。芦屋市は容リプラを収集していないので、独自の分別施設の建設が課題である。両者の費用負担割合が容易に決着せず和泉市の小林市議は、ごみ収集委託業者の待遇改善問題に取り組み始、計画は滞っている。
  - ・明石市は創業から 20 年程度しか経っていないのに震度に更新する計画を立て、国にも認められアセスを実施している。更新せず対応できると考える市議は少ないが、丸谷市議は頑張っている。
  - ・向日市の杉谷市議は、市職員が元暴力団の関係者に脅かされ死体遺棄に関与してしまった問題に関心をもち、市職員の罪を軽くできる条例の制定を求めているが、当局は福祉部が職員を助けなかった責任を取ろうとせず膠着状況が続いている。
  - ・吹田市の五十川市議は、当局が求めたパブコメを“編集”して、実質市民の意見を変えてしまった問題を取り上げ、是正を求めている。
- ④ 大阪府の魚アラは岸和田市にある小島養殖で魚粉になっている。大阪府と府下の市町村で構成される協議会と小島養殖との処理委託契約は解除された。その結果小島養殖への搬入量は 40 t/月から 25 t/月と約半分になった。減量分は有価物として排出者から集め境港市にある錦海化成に運搬している。橿原市と八尾市に建築した違法な中継基地は当会の問題提起を受けた八尾市と奈良県は中継基地に設置された冷凍冷蔵庫の使用を認めなかった。そのため、八尾市分は橿原市へ移送され、そこへ到着した錦海化成の車両に積み替えることになった。
- ⑤ 魚蛋白飼料原料の収集運搬事業は、大手排出者のスーパーが有料化の流れを加速させている。当会会員もこの流れに乗らざるを得ないため、小島養殖との交渉を強化する必要性が高まった。

### 2. 令和元年度収支報告（単位：円）

#### 【収入の部】

前期繰越	1,257,170
当期収入	
会費	152,500
寄付	0
事業収入	0
計	152,500
合計	1,409,670

#### 【支出の部】

当期支出	
事業費	134,281
管理費	136,648
計	270,929
次期繰越	1,138,741
合計	1,409,670

### 3. 令和2年度事業計画

主な事業計画は次の通り

#### ① 情報提供事業

年6回の会報発行については、必ずしもごみ問題とは直接関連しないが、会員が熱心に取り組んでいる社会活動も紹介する方針を強化する。また、ホームページ及びフェイスブックによる情報発信を行う。

② 市民派議員を中心とした「ごみ問題学習会」を今年度も2か月に1回のペースで行い、参加各市議の行政が抱える諸課題の改善に取り組む。コロナ対応策として ZOOM を活用したテレワークを始める。

③ 大阪市環境局との協同事業の一つである「大阪ごみ減量推進会議」は11月に予定されている都構想に関する住民投票結果に大きく左右されるので、どう変化するのかを調べる。

④ 海洋プラ問題では肝心の現在毎日河川を通じて海に流出しているプラの除去対策が取られていないことを訴え、先進事業者の紹介をする。それに加え身近な河川への流出削減策と除去策の実態を調べる。

⑤ 魚アラリサイクル問題については、大阪府魚腸骨処理対策協議会が解散した余波が大きく広がっている。そこで当会はこの問題に引き続き積極的に関わり、会員の収集運搬業者がより意義のある事業を行える支援を行う。

⑥ 大阪府におけるリサイクル、廃棄物減量等のための、市民・事業者・行政に対するコーディネート活動の一環として、大阪ごみ減量推進会議における、大阪市、再生事業者、他団体との協働活動を行う。

⑦ その他目的を達成するために必要な事業を行う。

### 4. 令和2年度収支予算 (単位：円)

#### 【収入の部】

前期繰越	1,138,741
当期収入	
会費	170,000
寄付	0
計	170,000
合計	1,308,741

#### 【支出の部】

当期支出	
事業費	150,000
管理費	162,500
予備費	30,000
計	342,500
次期繰越	966,241
合計	1,308,741

以上  
<文責：水川>



## パプアニューギニア滞在記（2019年～2020年）

Keyword：ポートモレスビー、ラバウル、ゴロカ、ブナ、遺骨収集団、観光、鉱業、コーヒー、海産物

### はじめに

「地球最後の楽園」と呼ばれ、広大な国土に手つかずの自然が多く残されているパプアニューギニア。インターネットが普及して簡単に情報が検索できる現在でも実際に訪問し、現地で生活しないとわからないことは無数にありました。特に、その地に住む人々の生活習慣、風習、考えなどは対話を通じての実体験を肌で感じなければ、なかなか理解することは難しいでしょう。

コロナ渦のため日本に一時帰国するまでの約1年間、仕事で滞在して感じたことをお伝えします。

### 1. パプアニューギニアの印象、暮らし

皆様、パプアニューギニアといえば何を思い浮かべられるでしょうか？ ネットを調べれば「人食い」「治安が悪い」「強盗団ラスカル」など強烈な言葉が多く出てきます。赴任時にも、空港に着いて一人で外に出たら強盗に遭うから必ず建物内の警備員のいる場所で待機しろと口酸っぱく言われました。移動は、基本昼間のみで自家用車での移動。住居も防犯のしっかりした場所が提供されました。はじめは凄いところに来てしまったなと思いましたが、何とか1年間危険な目にあうことなく過ごせました。



ニューギニア航空 HP から引用

ただ世界的にも治安の悪いことで有名なポートモレスビーですが、現地の人々が野蛮、粗暴であるとは感じず、どちらかというとな大人しく真面目な国民性なのかと感じさせるくらいでした。また、One Talk (ワントク)と呼ばれる部族の絆や郷土愛は強く、未だ伝統的村社会が残っている側面もあります。

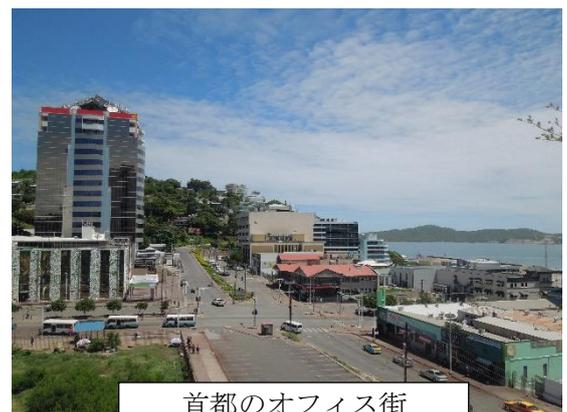
(ただ、お酒に弱くすぐ暴れること、一度火がつくと非常にけんかっ早い国民性なのでそこは要注意！)

治安が悪い一因として、現地人と外国人の貧富の差や地方からの人口流入による部族が入り乱れていること、また警察官の数が極端に少ないことなどかなと思います。職も給与も少なく、一部公務員、国営企業社員や隣の外国人が裕福な暮らしをしていたら、そりゃ犯罪は増えるかなと。

首都ではオーストラリア人など多くの外国人が住んでいることもあり、スーパーや飲食店などに不自由せず、生活に困ることはほとんどありません。日本食材も手に入ります。(例：キューピーマヨネーズ 250g 約 600 円)ただ、輸出品が多いため物価が高く日本よりも割高に感じます。(その中でお肉だけは、牛フィレが 100g 約 150 円と安くよく購入していました。)ただ、日本にあるような娯楽がほとんどないため、休日はゆっくりとした時間を楽しむことができます。

パプアニューギニア独立国概要 (外務省 HP から引用)

- ・元ドイツ、英国、豪州植民地。1975年豪州から独立
- 【国土】日本の1.25倍大小700もの島からなる
- 【人口】約861万人。800以上の部族
- 【言語】英語の他、ピジン英語、現地語等
- 【宗教】キリスト教。伝統的信仰も根強い
- 【産業】鉱業(天然ガス、金、銅)  
農業(パーム油、コーヒー)、林業



首都のオフィス街 (2019年著者撮影)



ゴロカショーでの一コマ  
(2019年撮影 友人提供)



ショー後様子。現地の人も入って来て  
ごったがえす会場(2019年撮影 友人提供)

## 2. 国内旅行

今後の人生でなかなか来る機会がないと思ったので、余暇の楽しみとして機会を捉え国内旅行もしました。ただ、国内の道路網が発達していなく都市間移動は基本飛行機のため、仕事の合間をぬっても2回ほどしか出来なかったのですが。飛行機代・ホテル代も高かったのは難点ですが、、

1回目は、約100以上の山間部族グループが集まり2日間に渡り朝から晩まで伝統的な踊りが楽しめるゴロカショー(毎年9月開催)。このお祭りは海外からの観光客も多く、その時期になるとホテルの予約も困難なほど人気です。ただし、日本から予約すると約20万~30万ほどするツアーになり、なかなか値は張りますが、、なお、祭りの会場は基本ツアー客しか入れないので安全に楽しめます。

そして2回目は太平洋戦争時、日本軍が玉砕したブナ。(ポボンデッタ)ここは、オーストラリア人にトレッキングで有名なココダ・トレイルの入り口がある街ですが、残念ながら時間の関係上入り口には訪問はできず。ちなみにこのオロ州には世界最大の蝶であるアレクサンドラトリバネアゲハが生息しているが、今では生息地が縮小しており絶滅危惧種になっているようです。なので、こちらも残念ながら見ることは叶わず。



ブナ近くの空港前に置いてある  
太平洋戦争時の航空機の残骸  
未だ各地に戦争時のものが残っ  
ている(2019年著者撮影)

## 3. 訪問して知ったパプアニューギニアと日本のつながり

パプアニューギニアは成田空港からほぼ真南に飛ぶこと約6時間半ですが、現在では、多くの方に馴染みがない近くて遠い国かと思えます。<sup>1</sup>しかし、ラバウルなどは太平洋戦争前から多くの日本人が仕事で移住し、今でも歴史的なつながりが深い場所です。(戦時歌謡の「ラバウル小唄」は有名かなと。)また、太平洋戦争時代「ジャワは天国、ビルマは地獄、死んでも帰れぬニューギニア」と揶揄されたほど、多くの兵隊さんが飢えとマラリアに苦しんで倒れた過酷な戦場でした。ちなみに、「ゲゲゲの鬼太郎」で有名な水木しげるの漫画家もラバウルに従軍し、その時に左腕を失っています。<sup>2</sup>そして、今でも毎年遺骨収集団の方々が現地を訪問し、ジャングルの中に未だ残る遺骨や遺留品の収集をされています。

また、現在多くはないですが日系企業(豊田通商、住友林業、双日、JX日鉱日石開発、太平洋セメント、PNGジャパン(旅行代理店)など)も進出します。<sup>3</sup>そして、JICA海外協力隊OBが帰国後も繋がりを大切にして、東京神田にあるFARMERS CAFE TOKYOでは日本ではあまり流通していないパプア産コーヒーが飲めたり、大阪にあるパプアニューギニア海産では天然エビを販売していたりします。

これらのこと私は現地に住むまでは知らないことばかりでした。滞在し交流の中で、自然と知ることができたのは貴重な体験だったのかなと思います。今回は紙面の関係上、生活の中で知った廃棄物事情については書けませんでした。次回機会があればと思います。(高森 靖記)

<sup>1</sup> 在日パプア人はわずか69名、在留邦人177名。出典：<https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/png/data.html#section1>

<sup>2</sup> 参照：水木しげるのラバウル戦記(ちくま文庫)、<http://mizuki-ten.jp/point/point2.html#link>

<sup>3</sup> JICAパプアニューギニア投資ガイドブックなどを参照。

## プラリサイクルは現場の声を聴くこと！

経済産業省のレジ袋有料化説明文書「レジ袋削減にご協力ください」には、『……普段何気なくもらっているレジ袋を有料化することで、それが本当に必要かを考えていただき、私たちのライフスタイルを見直すきっかけとすることを目的として……』と書かれています。

環境省の「みんなで減らそうレジ袋チャレンジ」では毎日1人がほぼ1枚使用している計算にもなるそうで、調査の結果レジ袋を1週間1枚ももらわなかった人が3割だったのでこれを6割にすることを目標に、他のプラスチックの削減にも広げようと呼びかけています。

テレビで見せられたレジ袋を食べて死ぬ亀を一刻も早く助けるものだとばかり思い込んでいたのですが早合点！でした。何か目がそれているように感じます。

昔から人は考え工夫してその時代々々に最もたやすく手に入る材料を用いて暮らしてきました。現在は化学が進歩したおかげでプラスチックが一番たやすく手に入る時代なのです。

見直すにはごみ処理の現場の意見を先ず聞くべきです！ 国の呼びかけには残念ながら具体的な後始末については書かれてはいません。減量できても海洋汚染などは無くなるわけではありません。

便利な物を便利に使って後始末をしっかりすればよいと考えます。

レジ袋の一番は清潔、そして手軽、縛れば臭いも遮断でき、お店によっては万引き防止にもなっているでしょう。とにかく家まで持ち帰るためだけの丈夫さでちょうどよいものなのです。またごみ袋として流し台のごみ処理にも必需品になっています。その為に我が家ではホームセンターで同様の袋を買ってきました。これではプラスチックの生産流通量は変わりませんね。友達も同様とのこと。エコバッグ代とホームセンターで買った袋代が余計な出費になりました。しかもレジ袋は容リプラですが同じものなのに買った袋は容リプラ対象物ではありません？！（袋が商品だから）

話を戻して、レジ袋の後始末として、使った後のレジ袋が勝手に集まるようにレジ袋に引力を持たせたいのです。使い終わってもゼロではなく少しの付加価値を付けておいて買った店やどこか回収専門店でポイントや現金と交換できるようにするのです。市民のモラルだけでは心もとないところにこれが相まって環境汚染防止の大きな引力になるのです。事業主の手元に残るレジ袋売上金の使途は決められていません。この買取り費と運営費用に充てればよいのです。再使用されごみ焼却場へいくものもあるので2円くらいの値打ちは付けられるでしょう。

他のプラの事も考えてレジ袋だけではなくこの回収ルートを利用してその他のプラや発泡スチロール全般も扱うようにしては？古紙類や一部の古布などはポイント制や買取もあるので前例にできます。亀には25%バイオ含有のレジ袋でも有害だから同様有価として回収すればよい。プラの選別には人件費がかかるがこのように店頭で持つていくことでその手間賃も節約できることになり一石二鳥ではないですか。国にも集めた分量に合わせて奨励金を出してもらいたいのです。

今回は面白いところがなかったですが見方を変えると、ごみ問題と思っていたのに経産省のプラ生産量を減らさないための、国民にお金を使わせる施策であったことに気づいて笑おうではありませんか。



百貨で売っているレジ袋と同様の袋

(楠 大吉記)

## 緩速濾過技術の浄水場を残そう（その1）

### はじめに

和泉市・高石市・泉大津市の3市は、泉州地区最大の光明池を水源とする泉北水道企業団を作って、約2割の水道水を供給し、8割は大阪広域水道企業団（大阪府が主導し府下の42市町村のうち自己水源を持たない14市町村が加入した団体が構成、これに加入しなくても給水されている。）に頼っています。

ここの最大の特長は、緩速濾過方式による浄水を行っていることです。淀川から取水している大阪府や大阪市、枚方市などは高速濾過方式を採用しています。「高速」とは砂で濾過するスピードが速いことで「緩速」とは遅いことです。遅い分必要な敷地面積が多くなり短時間に多量に浄水できません。淀川のように原水が汚れていると砂で除去できないトリハロメタンや臭いを取る高度処理が必要になったり、砂が目詰まりしやすくなるので砂を洗うスピード（逆洗と言い水流の方向を逆にして汚れた砂を洗う）も速くすることもできますが、緩速ではこれらができがたいので原水がきれいな光明池に適した技術で、当然浄水コストも安くなり、規模は小さいが高速の約8割程度になっています。

ところがこの優れた浄水技術を3市のトップは止めて、全て大阪府から買おうとしているので、心ある市議が頑張っています。

### 1. 大阪府は「府一水道化」を狙っている

維新になってから、大阪府は府下の全水道を全て管理できる「府一水道化事業」を進めています。3市はこの意向を忖度して率先してこの路線に協力しようとしているのです。

府一水道にすると、2021年～60年までの40年間の総費用が6兆9千億円より2.3%～3.1%安くなると言っています。仮定を少し変えるだけで数%上下するし、府下の水道料金を同額にすると言っていますから、大阪市の水道料金は2000円から2800円の平均額になってしまうのです。



大阪広域水道事業団のキャラクター

### 2. 泉大津市は反対派が多い

こんな不利な条件なのに、3市のトップは府の路線を推進しようとしているのです。3市の心ある市議達は再考を求めているのですが、和泉市・高石市の市議達は6月議会で、泉北水道企業団を解散するための手続きを定める条例案に賛成してしまいました。唯一泉大津市の市議会は考える市議が多数を占めているので、当局は6月議会に上程できず、多数派工作をして9月議会での可決を狙っています。

トリハロメタンが大きな社会問題になったのは30年ほど前ですが、行政は高度処理することで解決したため、それ以降水道問題は市民の関心を引かなくなりました。今回の問題も水質でなく、結局は水道料金問題に帰着するので、関心を持ってくれる市民が少ないのです。

（森住 明弘記）

## 夕陽を見ながら、楽しいごみ拾い

加藤 昌彦

近頃、アイヌ語地名からの脱線が多くて、すみません。

今回も脱線です。お許しを。しかし、話題はごみ拾いです。1990 年秋に「ごみを考える全国集会」が、本会の主催でなされました。その時、千葉県習志野市の森田三郎さん（後に県会議員・吉川英治文化賞受賞）に来ていただき、講演していただきました。森田さんはごみ捨て場と化していた谷津干潟を修行僧のように毎日毎日ごみを拾って蘇らせました。すごい方です。

片や私のごみ拾いは、その根性も定期性も、な～んにもなく、気まぐれにするのみで、ただ続けようとしているだけが殊勝なところ です。

人間は面白いもので、自分の設計図で動く動物と思います。それから外れたことをしないのです。自分の住む公園の周辺は、これまでにしたことはなかったのです。30 年前に勤務の通り道の公園を持ち場ときめて、ごみ拾いを始めました。それから、母親の家に介護に行く途中にある、淀川の 70m ぐらいの堤防斜面に散乱しているごみを何とかなくしたい、と思い清掃。面白いもので、きれいな斜面にすると車から人はごみを捨てなくなりました。遠慮するらしいです。

それから、阪神電車の高架の下の通路の低いところに水が溜まるので、それを帚で除去しています。また国道 43 号線の間と、阪神電車の中の公園通路で、ごみを拾っています。それらをしていきますと、面白いことに、見たこともないのですが、誰かが別にやって下さる方がいるようです。すると、こちらは、ちょっと手抜きをします。今度は範囲を広げて、かなり広い公園全体を持ち場、と思うようになりました。それから次に、淀川左岸のある広い区域の河川敷を持ち場、と考えるようになりました。

河川敷は海から、また、川上からのごみが流れ着いています。枚方市から大阪市へも流れてきています。プラスチック類が多いです。また最近ではマスクがとても目立ちます。河川敷で遊ぶ人のごみも多いです。河岸で気をつけないと、水の中へ落ちます。また、拾ったごみをどこに持っていくのか、頭を抱えます。

私は中学 2 年生から、淀川から 50m の海拔マイナス 2.5m (!) の超危険な長屋に住んでおりました。そして淀川に落ちる夕陽を眺めながら育ちました。長じて現在、夕陽専門のカメラマンになっております。日没の撮影時期を待って、カメラを持ちながら、ごみを拾っています。河川敷のけもの道のような小道を歩き、ナヨクサフジの可愛い野草を堪能しています。綺麗にした河川敷で、友達と宴会をするのを夢見ております。73 歳。

次号からはアイヌ語地名に戻ります。

